

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 13年3月

～1-3月期の外需寄与度は前期比0.2%程度のプラスに

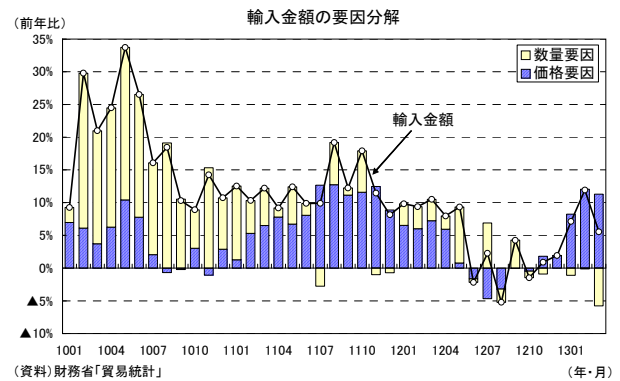
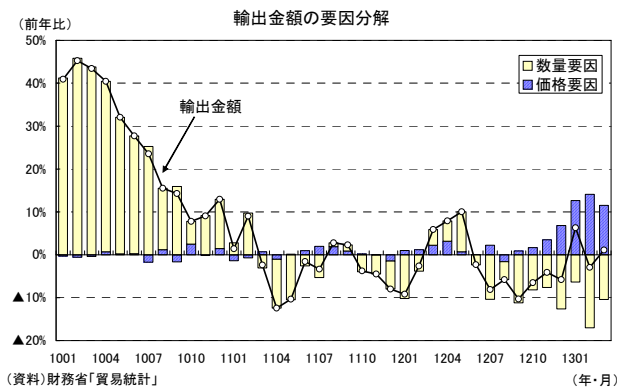
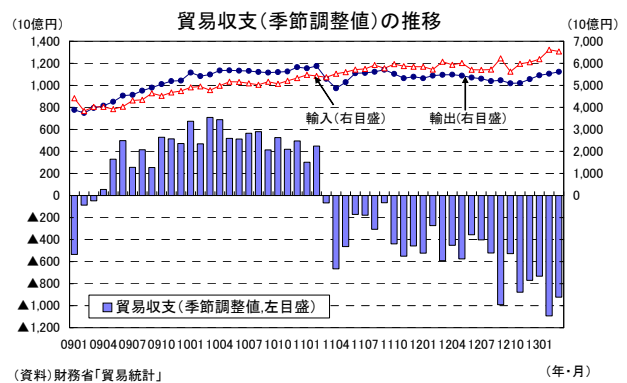
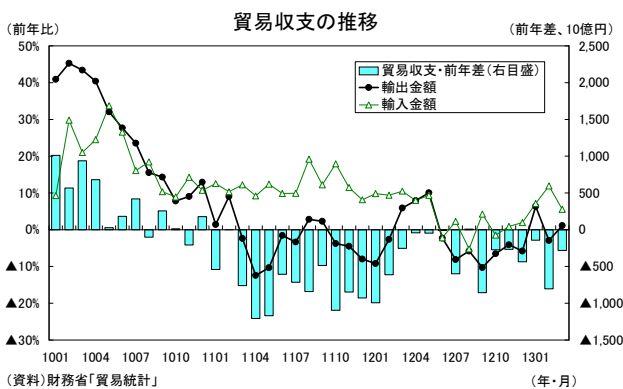
経済調査部門 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 大幅な貿易赤字が続く

財務省が4月18日に公表した貿易統計によると、13年3月の貿易収支は▲3,624億円と9ヵ月連続の赤字となったが、赤字幅は事前の市場予想（QUICK集計：▲4,869億円、当社予想は▲4,983億円）よりは小さかった。輸出が前年比1.1%（2月：同▲2.9%）と2ヵ月ぶりの増加となる一方、輸入の伸びが2月の前年比11.9%から同5.5%へと低下したため、前年に比した貿易収支の悪化幅は前月よりも縮小した。

季節調整済の貿易収支は▲9,220億円となり、2月の▲10,925億円から赤字幅が縮小したが、2月は中国の春節の影響で輸出が押し下げられ赤字が膨らんでいたことを考慮すれば、貿易赤字が実態として縮小し始めたとは判断されない。季節調整済の貿易赤字の水準は13年2月、12年9月に次ぐ過去3番目の高さとなっている。



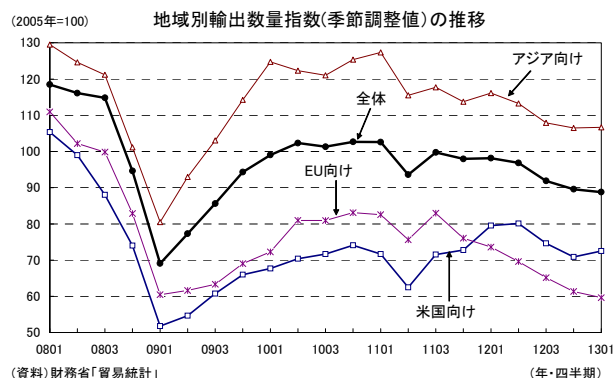
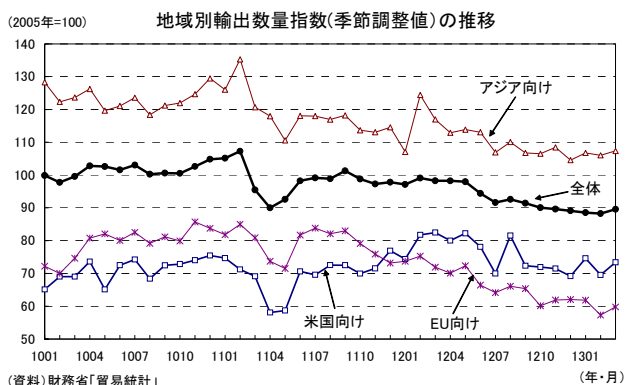
輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲9.8%（2月：同▲15.8%）、輸出価格が前年比12.1%（2月：同15.3%）であった。輸入の内訳は、輸入数量が前年比▲5.5%（2月：同▲0.1%）、輸入価格が前年比11.7%（2月：同12.1%）であった。

2. 輸出数量は持ち直すも、貿易赤字の縮小は夏頃の公算

3月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比▲10.5%（2月：同▲14.8%）、EU向けが前年比▲16.4%（2月：同▲23.7%）、アジア向けが前年比▲7.7%（2月：同▲14.6%）と、いずれの地域向けもマイナス幅が縮小した。

1-3月期の輸出数量指数を季節調整値(当研究所による試算値)で見ると、米国向けが前期比2.3%（10-12月期：同▲5.0%）、EU向けが前期比▲2.8%（10-12月期：同▲5.9%）、アジア向けが前期比0.2%（10-12月期：同▲1.3%）、全体では前期比▲0.9%（10-12月期：同▲2.5%）となった。景気後退が続くEU向けは6四半期連続の減少となったが、米国向けが米国経済の堅調を反映し3四半期ぶりに増加に転じ、アジア向けも新興国経済の回復を背景に小幅ながら4四半期ぶりの増加となった。ただし、中国向け輸出は日中関係悪化の影響が長引いていることもあり、自動車を中心に大幅な減少が続いている。

1-3月期の輸出数量指数は全体では4四半期連続の減少となったが、マイナス幅は10-12月期から縮小しており、月次ベースでは3月は前月比1.5%と7ヵ月ぶりの増加となった。円安による輸出数量の改善効果が顕在化し始めたとみることができるだろう。ただし、現時点では輸入価格の上昇が輸出価格の上昇を上回る交易条件悪化の影響が大きく、貿易赤字が基調として縮小するまでには至っていない。数量面の改善が金額ベースの貿易収支の改善につながるのは夏頃になることが見込まれる。



3. 1-3月期の外需寄与度は前期比0.2%程度のプラスに

3月までの貿易統計と2月までの国際収支統計の結果を踏まえて、1-3月期の実質GDPベースの財貨・サービスの輸出入を試算すると、輸出が前期比2%台後半の増加、輸入が1%台前半の増加となることが見込まれる。この結果、1-3月期の外需寄与度は前期比0.2%と4四半期ぶりのプラスとなることが予想される。

なお、1-3月期の輸出は数量ベースでは前期比でマイナスとなったが、実質GDPベースの輸出は明確なプラスとなることが見込まれる。両者の乖離は、GDP統計の輸出には貿易統計で捕捉さ

れる財以外に、旅行、輸送などのサービス取引が含まれていること、貿易統計の輸出数量指数は輸出金額を輸出価格指数で割ったものであるのに対し、GDP統計の実質輸出は輸出金額を輸出物価指数で割ることにより求められることによって生じている。足もとでは輸出価格の伸びが輸出物価の伸びを大きく上回っているため、輸出数量よりも実質輸出のほうが高い伸びとなる。

当研究所では鉱工業生産、建築着工統計、家計調査等の結果を受けて、4/30のweeklyエコノミストレーターで1-3月期の実質GDP成長率の予測を公表する予定である。現時点では、外需が4四半期ぶりに成長率の押し上げ要因となることに加え、国内需要が民間消費、公的固定資本形成を中心に好調を維持することから、前期比年率2%台半ばのプラス成長になると予想している。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。